

資料

1930年代のアメリカにおける「国語の単元学習」

— *An Experience Curriculum in English* (1935) にみる単元展開 —

小久保 美 子

1. はじめに

戦後の教育改革において、アメリカのサゼッションを受けながら初めて単元学習なるものが唱導された。当時わが国ではコア・カリキュラム運動が隆盛であり、実験学校を中心に単元学習の実践的研究がなされていた。そこでは、単元学習は「経験単元」でなければならないとされる傾向にあり、「教材単元」は否定されがちであった。当然のことながら、国語科の単元学習は成立しないというのがその主張であった。一方国語科教育界においては、新しい国語教育を具現化するものとして単元学習による学習のあり方が模索された。しかしそこにみられる実践は、「～のしかた」といった国語に関する知識や技術の習得を目指したものが多く、学習者の内発的な動機に基づく言語経験が展開されているとは言い難いものであったように見受けられる。

ところで単元学習の移入のされ方は、一部の研究者らによる理論レベルがもっぱらであり、単元学習の実際の展開例はほとんど紹介されることがなかった。果たしてアメリカの単元学習とはどのようなものであったのだろうか。国語固有の単元学習は構想されていたのだろうか。構想されていたとすれば、それはどのようなものであったのだろうか。本稿の目的はそれらの点について明らかにしようとするものである。対象とする文献は、アメリカの経験主義国語教育の雛形となったとされる *An Experience Curriculum in English* (1935) (以下、本書) である。

2. 本書について

本書は、W. Wilbur. Hatfield を代表とする全米国語教育者協議会 (The National Council of Teachers of English) のカリキュラム委員会によって発表された報告書^①である。当時わが国では、梅根悟、倉澤剛、平井昌夫、倉澤栄吉、増田三良らを取り上げている^②。しかし、その取り上げ方は諸氏によっていろいろであり、本書に対する評価にも相反したのが見られる。倉澤剛が、「他教科のカリキュラム改革にも大いに裨益する」と高い評価を下す一方で、梅根は、「教科別経験単元の構想と試行の結果が結局伝統的な教科区分の罅を越えざるを得ない破目に陥り、「教科別の経験単元」ということが自己矛盾の概念であることを告白するに至っている」とする。

国語の単元学習を再考していくためには、本書に対する倉澤と梅根の相反する評価を止揚していくことが必要である。その手続きとして、本書の末尾に付録として載せられている単元の展開例を見ていくことにしたい。これらの単元例については今日まで注目されることがなかった。(当時国語教育の代表的な実践家の一人であった増田三良の著書『国語カリキュラムの基本問題』は

本書のスコープに大いに依拠しており、そこに挙げられている言語経験や要素単元はほぼ本書に載せられているものである。しかし、本書の単元例については取り上げていない。代わりに増田はコア・カリキュラムの単元例を載せている⁹⁾。

本書の国語の経験カリキュラムは、幼稚園から小学校・中学校・高等学校までの範囲にわたっており、言語経験の領域は、文学経験・読むことの経験・創造的表現・コミュニケーション（スピーチ経験と書くことの経験）の4領域に分かれている。それぞれの経験領域は、3つから6つないし8つの経験ストランドに分類され、さらに各ストランドは、複数の単元（unit）¹⁰⁾から構成されている。

本稿で紹介する単元学習の展開例は、本書の末尾に付録として載せられている以下の4例である。文学経験（7学年～12学年）の単元1例、読むことの経験（幼稚園～6学年）の単元2例、創造的表現の経験（7学年～12学年）の単元1例¹¹⁾。各単元は、「主な目標（Primary Objective）」、「指導目標（Enabling Objectives）」、「活動（Activities）」、「個人差への対応（Differentiation）」、「成長の評価（Appraisal of Growth）」の項目順で述べられている。これらの単元は各市や州のカリキュラムに見られるものを本委員会がさらに練りあげたものということである。以下、上記の項目に従い、単元についての解説を加えながら、原文を訳出する形で単元の展開例を紹介していく。 （指導目標、成長の評価の観点が複数ある場合は箇条書きで記載した。人名、書名は原語で示した。）

3. 単元の展開例

3-1. 文学（7学年～12学年）「ラジオ放送を聴く」

「ラジオ放送を聴く」は、中・高等学校段階の文学経験の8つ目のストランドである。この経験ストランドは、5つの単元から構成されており、各単元の「主な目標」は以下の通りである。

1. 物語や寸劇の番組から豊かさや楽しみを得る。
2. 最もよい放送番組と連続番組を見つけ楽しむ。〈本単元〉
3. ニュースの要約、公の場の物語、旅行談のような情報番組を味わいながら、また批評しながら聴く。
4. 公の質問に関するディベートとスピーチとを区別しながら聴く。
5. 満足できる訓話、講義、説教などの番組を見つけ楽しむ。

当時アメリカでは映画やラジオなどのメディアが進出し、それらの影響が教育課題になっていたことから本単元のようなものが構想されたものと思われる。質のよい価値ある番組を発見させ楽しませることが単元のねらいとなっている。ラジオ番組を言語文化としてとらえ、「ラジオ放送を聴く」という経験を文学経験として位置づけている点が示唆的である。

【指導目標】

- 新鮮さと巧みさを認識すること。
- 連続番組の一貫した特徴をつかむこと。
- 風刺される通俗な人間の弱点や愚かさを調べること。

【活動】

- a. 最も人気のある喜劇番組の魅力を、内観したり大人に尋ねたりして発見する。考えられるものとして、

機知、しゃれ、どたばた喜劇のコメディ、「単純な」行為や発言、変わり者のコメディなど。

- b. 最も注目されている喜劇ラジオ作家を挙げ、それぞれの何が最も市民を引きつけるのかについて一文で指摘する。
- c. 登場人物の一貫しないよく知られた放送の、不自然な対話、粗野な冗談、陳腐なしゃれや警句、不愉快な声を、筋を通して指摘する。
- d. 人気番組の風刺の要素を指摘する。

【個人差への対応】

登場人物の一団や連続番組で用いられる基本的立場を想像する。このグループに可能な限り初めのプログラムを用意し提供する。

【成長の評価】 学習の初めと終わりとに好きな喜劇番組を匿名で選択させ、変化を見る。

3-2. 読むこと(幼稚園～6学年)「準備段階の経験」

本単元は入門期の読みのレディネスを発達させるための言語経験に属するものである。「主な目標」は「ラベルを貼って使う」である。入学後の児童は教室という環境の中で文字に接する。その一つがいろいろな箇所に貼られるラベルである。

【指導目標】

- ラベルの目的を理解したりラベルから情報を得たりすること。
- ラベル間の長さ、一般的な形、目立つ文字のちがいを識別すること。
- 自分自身の名前を確かにすばやく認識すること。

【教師と子どもたちの活動】

入学して数日中に、子どもたちは、自分の紙や鉛筆、クレヨン、おもちゃなどを入れておく棚が与えられる。教師と子どもたちは、棚に印をつけることの必要性について話し合う。教師はラベルに一人一人の子どもの名前を活字体で書き、その子どもに教師の方を見るよう促し、そうしてから自分の棚にラベルを貼らせるようにする。個々の子どものクレヨン箱やロッカーにも同じような方法でラベルを貼らせるのがよいだろう。また、フラッシュカードで互いの名前を知るゲームは、自分の名前をいち早く認識するのを助ける遊びとなるだろう。

子どもたちが小さなワゴンのような物を作った後には、それぞれの物品に番号をつけ、名前をつけることよい。番号は、置き場に順に「整列させる」のに都合がいいし、名前は区別するのに役立つ。

必然的な、そして明瞭な目的のもとにラベルが使用される状況が生じた時、ラベル貼りの活動を導入することができる。例えば、子どもたちが創作する絵やおもちゃに貼るために、子どもたち自身に自分たちの名前を活字体で書かせてもよいし、あるいは、教師が子どもたちの名前を活字体で書いてもよいだろう。子どもたちがペンキを使ったような時には、それらから身体を離すよう人々に注意を促すために、「ぬれたペンキ」のサインをペンキ塗った物の近くに置くことよい。

一定の棚やテーブル、あるいは窓の柱などに「博物館」のラベルをつけるのもよい。子どもたちはここに科学の標本をおくだろう。そして、しばしば自分の標本にラベルをつけるだろう。それらは適切な活動である。

子どもたちにペンキや粘土、他の用品を使わせない方がよい時もあるだろう。そのような時は、「きょうはねんどちゅうし」とか、「きょうはペンキちゅうし」などのようなラベルを使うことよい。それは、教師の言語的指示に依存してしまいがちな子どもたちを自立させるのに役立つだろう。

プレーハウスや店のような建物を建設する際には、ラベルの適切さや価値が見いだされる。例えば「卵、25セント」というように、ラベルは値段を知らせるために、店の品物に貼られるだろう。

報告板や本箱の場所、あるいは物の保管場所には、引き立つようにラベルを貼るとよい。

紛失物や拾得物を置くコーナーは、「落とし物と拾い物」というようなラベルで指示をするのがよいだろう。天気の情報には、「雨」「曇り」「晴れ」などのラベルで毎日知らせるようにする。

家事、植物の水やり、金魚の世話、昼食の準備等をする特別の部屋は、ラベルで示すとよい。

【資料】

教師が作成するラベルの文字はできるだけ統一的で単純なものにすべきである。できたら、1学年の先生が入門期の読みの指導に使う活字（写本文字）と同じ型の文字で作るようにする。

適切な大きさにカットした厚手のマニラ紙は、ラベルの材料に都合がよい。小さなラベルは、Dennison's Gummed Labels に書くとよい。インクを使う時には、2本のサイズのペンを用意し、1本は小さいラベル用に、もう1本は大きなラベル用に使うとよい。業務用の黒ゴムの文字や数字は、大変便利であり、引き立つし読みやすい。印刷用品が利用できるなら、子どもたちは教師の助けを借りながら自分の名前をラベルに印刷するだろう。このような場合は、大型の文字（大文字ではなく）が最適である。

【成長の評価】

- 家事やリーダー、金魚の世話、植物の水やり、あるいは他の仕事の当番が来るのを見つけ出すために、適当な表で自分の名前を読むか？
- 天気のお知らせに関して、どのくらい進んで語を変えるか？また、一人でそれをするか？
- 教室の大きなカレンダーのところに行くと、誕生の年月日や決められた休日のような、自分たちの知っている事柄を指摘する場面がみられるかもしれない。
- 自分の名前のラベルがついたフックに外とうをかけるか？
- 教師が、本棚に、動物、汽車、その他というように本のタイプ別にラベルを貼った後で、子どもたちは、正しい場所に本をもどすか？
- 標識の必要性を見だし、自主的にそれらを作ろうとするか？そして、それを、自ら正しいところにおくか？
- 「今日は粘土を使ってもいいですか」とか「図画工作の時間はこれですか」とか教師に尋ねる代わりに、それらの情報をラベルの内容から得ることを学んでいるか？

本単元は、物理的環境を理解し、人間を理解し、そこでの行動を理解するのに、文字が重要な役割を果たしていることを実感させるのが重要なねらいである。ラベル貼りの活動は、生活の必要に応じて、明瞭な目的のもとに、教師と子どもとの協同作業で行われる。そこに経験主義国語教育の特徴が表れている。

3-3. 読むこと(幼稚園～6学年)「段落内から質問の答えを探す」

本単元は、初等学校段階の読むことの経験⁶⁾における4つ目のストランド「質問に答える読み」に属するものである。この経験ストランドは、6つの単元から構成されており、各単元の「主な目標」は以下の通りである。

1. 段落の中心点が答えになっている段落内（傍点訳者。以下同様。）から、質問の答えを探す。
2. 中心点とそれを支持する詳細な事柄が書かれてある段落内から、質問の答えを探す。
3. 主要なことが書かれていない段落内において、質問の答えを調べる。
4. 中心点が答えになっている段落群において、質問の答えを調べる。〈本単元〉
5. 中心点やそれを支持する詳細なことがらが書かれている段落群において、質問の答えを調べる。
6. 特定の本の中から、幅の広い質問あるいは幅の狭い質問の答えを見つける。

段落内から段落群へ、答えを探すから調べるへ、というように、言語経験の難易度が増している。本単元には、さらに具体的な「主な目標」、活動に応じた資料、個人差への対応が示されている。

【主な目標】

先生から質問に対する答えの段落がある本の名前を告げられたとき、その段落を探し答えを見つける。

【指導目標】

- 話題に関する段落を探す時に、インデックスを使うこと。
- 中心の考えを理解すること。
- 従属する事実や考えの関連性を見つけること。
- 関係のない資料を捨てること。
- 一度の読みで、できるだけ多くの支持する事実を心に留めること。
- 要約の際に省く事柄を拾い出すために、段落から段落へと素早く目を移すこと。

活 動	資 料	個人差への対応
本のインデックスに気づく	簡単なインデックスのある本	遅れた子どもたちは、アルファベットに関するドリルを行う
インデックスの位置と配列の型に気づく	より細かなインデックスのある本	より優れた子どもたちは、劣る子どもたちが使うためのアルファベットのリストを作る
インデックスと目次の配列を比べる	学年向けの地理、衛生、歴史の教科書	インデックス作業のドリルを必要としない子どもたちは、与えられた話題についての関連リストを作る
アルファベット順で語を見つける	教師から配られたアルファベット順の語のリスト	
与えられた話題のもとでインデックスを用いてすべての語を見つける	インデックスで語を探すドリル練習のセット	読みの必要に応じてクラスをグループに分ける
インデックスにおける副話題の配列のされかたに気づく	インデックスで語を探す問いのドリル練習	問いに対する答えをいち早く見つけることのできる顕著な子どもたちには、同じ話題で特別な問題を与える
問題を解決するためにインデックスで探す語を決める	答えのあるページを探す質問を含んだ教師作成のドリル練習	
質問に対する答えのあるページを探すためにインデックスを使う	資料が発見されるにちがいない他の内容教科からの話題の関連リスト	
与えられた話題を扱ったページを選び、大切な考えを見つける	内容教科に関係した教科書か雑誌の記事	
教師から主要な話題や考えを与え	主な話題と小見出しのついた教師	

<p>られたとき、いくつかのページを読み、従属する考えの概略を記入する</p> <p>記事を読み、新しい語や句、理解のできない語や句をすべて選ぶ</p> <p>記事を読み、主要な考えをたくさん思い出そうとする</p> <p>記事の中の主要な考えのすべてを自分自身や級友に話し、省いたことを調べるために記事をもう一度見直す</p> <p>教師は、インデックスに語を早く見つけだすことのできない子どもたち、主要な考えを選び出すのが困難な子どもたち、語彙の限られている子どもたちに注意する</p> <p>困難な点を明らかにするために、クラスで話し合う</p> <p>子どもたちの考えの誤りやそれに対する教師の考えを与えるために、ドリル練習をチェックする</p>	<p>作成の記事の概略（記入できるように左側を空ける）</p>	
---	---------------------------------	--

【成長の評価】

- 地理や歴史や理科で新しい話題が取り上げられるとき、あまり使わない語や知らない語を見つけ始め、それらの意味を調べようとするか？
- 与えられた話題を扱ったページをいち早く見つけることができるか？
- 教科書で資料を見つけるときに助けを必要とする子どもたちが徐々に減ってきたか？
- 学年段階に応じた資料から主要な話題の概略を作ることができるか？

本単元は、インデックスを使い、適切な情報を探することができるようにするための練習的な単元である。教師は、インデックスのある本を用意したり、インデックスで語を探す練習をさせるための質問を用意したり、内容教科の教科書から話題に関する関連リストやワークシートを作成したり、雑誌記事を用意したりと、多様な準備活動を必要とする。成長の評価の観点として、他教科の学習における言語行動の向上の変容を見る視点が示されていることから、この単元は、他教科の調べ学習に資するために、国語科で先だって、「インデックスを使って調べる」というスキルの導入的扱いを行う単元として位置づけることができるだろう。

3-4. 創造的表現(7学年~12学年)「想像による創作」

創造的表現は、文学や書くことと関連させながら行われる活動である。この経験領域では、文学経験の領域同様、矯正の指導 (Corrective Teaching) は行われない。「正しい、誤り」という評価の概念は、創造的表現の場合該当しない。重要視されるのは、各学習者が表現したいという欲求が生じるよう、自己の経験をよく観察 (observation) し、想像 (imagination) し、熟慮 (reflection) することである (中・高等学校段階)。「自己の経験を表現しようとする努力をとおして経験の楽しみが増大し深まっていく」とし、そこに創作教育の目的をおいている。「賞賛されることを期待して上手に書こう」と考えた時点で創作活動は意義を失うとしているところに、学習者の言語経験の真实性を第一とする経験主義国語教育観がうかがえる。

本単元は、「想像」による創造的表現の経験ストランドの例である。「主な目標」は、「語の想像的な意味を見つけ伝え合う」であるが、それを達成させるために、以下の3つの「指導目標」が段階的に示され、それぞれ「活動」「資料」「個人差への対応」が考えられている。

【指導目標 I】

ある語について、語の組織がもたらす雰囲気的な価値を見つけ、書くときに適切にそれらを使うこと。

活 動	資 料	個人差への対応・豊富化																																		
<p>予め考えを刺激するために 黒板上の語について調べる： 3つの各グループのB欄の語が、A欄のそれぞれ相当する語に対して一般性が少ないこと</p> <p>グループIのB欄の語が、ロマンチックな連想をさせること</p> <p>グループIIのB欄の語が、高尚な聖書の語であること</p> <p>グループIIIのB欄の語が、エドガー・アラン・ポーの恐怖の物語にある典型的な語であること</p> <p>語が、文学的な意味に加えて連想的な意味の雰囲気をもっていること</p> <p>次のような一般的な語の類義語をノートに書きとめる：<i>dress, frock, gown, habit, etc.</i>、そして内に含まれる差異を示す</p> <p>好きな語、嫌いな語を書き留める</p>	<p>生徒が調べるための対語 (黒板上や他の場所に示す)：</p> <p>グループI</p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> <tr> <td>1. girl</td> <td>damsel</td> </tr> <tr> <td>2. dressd</td> <td>clad</td> </tr> <tr> <td>3. horn</td> <td>bugle</td> </tr> <tr> <td>4. raft</td> <td>barge</td> </tr> <tr> <td>5. window frame</td> <td>casement</td> </tr> <tr> <td>6. fading</td> <td>waning</td> </tr> <tr> <td>7. dream</td> <td>trance</td> </tr> <tr> <td>8. sang</td> <td>chanted</td> </tr> </table> <p>グループII</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ate c</td> <td>devoured</td> </tr> <tr> <td>2. tore</td> <td>rent</td> </tr> <tr> <td>3. clothes</td> <td>raiment</td> </tr> <tr> <td>4. saw</td> <td>beheld</td> </tr> <tr> <td>5. happened</td> <td>came to pass</td> </tr> <tr> <td>5. brothers</td> <td>brethren</td> </tr> <tr> <td>7. my</td> <td>mine</td> </tr> <tr> <td>8. given</td> <td>delivered unto</td> </tr> </table>	A	B	1. girl	damsel	2. dressd	clad	3. horn	bugle	4. raft	barge	5. window frame	casement	6. fading	waning	7. dream	trance	8. sang	chanted	1. ate c	devoured	2. tore	rent	3. clothes	raiment	4. saw	beheld	5. happened	came to pass	5. brothers	brethren	7. my	mine	8. given	delivered unto	<p>語のタイプを拡張し、それらに対して適切な名前を見つける (例えば、<i>common place words, technical words, etc.</i>)</p> <p>好きな作家の作品を読み、使われている語彙の型をノートする</p> <p>対照的な雰囲気のある詩や物語を読み、語彙のちがいをノートする</p>
A	B																																			
1. girl	damsel																																			
2. dressd	clad																																			
3. horn	bugle																																			
4. raft	barge																																			
5. window frame	casement																																			
6. fading	waning																																			
7. dream	trance																																			
8. sang	chanted																																			
1. ate c	devoured																																			
2. tore	rent																																			
3. clothes	raiment																																			
4. saw	beheld																																			
5. happened	came to pass																																			
5. brothers	brethren																																			
7. my	mine																																			
8. given	delivered unto																																			

<p>以下のような効果をもたらす語を物語から見つける：</p> <p>a. Cheerfulness b. Gloom c. Mystery d. Languor</p>	<p>グループⅢ</p> <p>1. wrapped shrouded 2. clothing habiliments 3. faces countenances 4. black sable 5. hall corridor 5. candle taper 7. fear trepidation 8. ruined dilapidated</p>	
<p>書く練習をする</p> <p>聖書風の文体であるきつねとぶどうのような物語を再話する，そして他の級友に読み聞かせる，表現法を変えることによって生み出される効果のちがいを順番に述べ話し合う</p>	<p>生徒が調べるための本：</p> <p>a. bible b. Poe's short story c. Tennyson's <i>Idylls the King</i> or "The Lady of Shallot" f. others</p> <p>生徒が個人的に気づいたことを書きとめるための鉛筆と紙</p>	<p>いくつかの異なった語彙の型で，挿話を書いたり話したりする</p>
<p>ロマンチックな語を使うことで挿話の調子を変える（右の欄に示した挿話を参照）</p>	<p>ロマンチックな解釈の可能性のある簡単な挿話：</p> <p>(挿話，訳者省略)</p>	<p>語を選ぶことによって好きな作家のスタイルをまねる</p>
<p>ポーの態度で簡単な物語を再話する（右の欄の挿話を参照）</p>	<p>話し手の雰囲気の可能性を示す簡単な物語</p> <p>(挿話，訳者省略)</p>	
<p>創造的な努力</p> <p>注意を引く場面の「雰囲気」を調べる—(略)—適切な語でそれを述べる</p> <p>級友が絵に適した「雰囲気」のタイトルを選べるように，調べたことを級友に読んで聞かせる</p> <p>一人の作家の描写の適切さと効果を批評する</p> <p>クラスの話し合いに基づいて書いた作品を校正する</p>		

【指導目標Ⅱ】語の正統な価値を発見し，それらを使って叙述すること。

活 動	資 料	個人差への対応・豊富化
<p>予め考えを刺激するために 語の音が意味のように聞こえる ということに気づくために黒 板の語を調べる</p>	<p>以下のような語（黒板に示す）： <i>hiss, crackle, moan, sputtering,</i> etc. オノマトベの例として、ポーの <i>The Bells</i> のような詩（黒板に示 す）</p>	<p>適切な韻文や詩で、オノマトベ、 頭韻法、反復、の例をさがす</p>
<p>音が意味のように聞こえる語の リスト（黒板上）に加えるた めに他の語を示す</p>	<p>頭韻の例（黒板に示す）：<i>divine</i> <i>despair</i> の <i>depths</i> からくる涙</p>	
<p>ポーの <i>The Bells</i>（または、同 様の目的が達せられる他の 詩）を、オノマトベを強調し ながら、（一人で、一斉に） 声に出して読む</p>		
<p>音の調子を強調できるように、 Lanier の <i>The Symphony</i>（ま たは、同様の目的を達せられ るような詩）を声に出して読む</p>	<p>Sidney Lanier の <i>The Symphony</i> の ような詩（または、それにつく 作品）</p>	
<p>MareのSilver を声に出して読 み、silver の語の、音の反復 の効果に気づく</p>	<p>語の、反復の調子の質を表す Walter de la MareのSilver のような詩 （黒板や手近なところに示す）</p>	
<p>声に出して読み、長母音と短母音 が多い詩の効果のちがいに気 づく</p>	<p>長母音の優勢な詩と短母音の優 勢な詩とにおける調子の効果の ちがいの実例になる詩からとっ た2つ以上の連（例えば、<i>The</i> <i>Sands of Dee</i> — Kingsly と <i>Chambered Nautilus</i> — Holmes を比較する）</p>	
<p>書く練習 屋根に当たる雨の音や他の音を 描写するために、例えばオノ マトベのような方法で、<i>The</i> <i>Bells</i>（または他の詩）（韻や リズムのある、またはない詩） をまねる 節にある語の反復や頭韻の効果 をまねる</p>		
<p>創造的な努力 写実的な雰囲気をもたらす音の ある語で叙述する</p>		<p>音の調子を用いて詩を書く</p>

【指導目標Ⅲ】語の豊かで創造的な思想を見いだし、それらを適切に使うこと。

活 動	資 料	個人差への対応・豊富化																		
<p>適当な語意識</p> <p>辞書を引き、黒板上の語の文学的な意味と現代的使用とを比較する（グループⅠ参照）</p> <p>語の意味に埋め込まれた豊かな象徴的意味を発見する</p>	<p>以下のような語(黒板上に示す)：</p> <p>グループⅠ</p> <table border="0"> <tr> <td>tractable</td> <td>suppliant</td> </tr> <tr> <td>transgression</td> <td>bombastic</td> </tr> <tr> <td>scruple</td> <td>stigmatize</td> </tr> <tr> <td>precipitate</td> <td>supercilious</td> </tr> <tr> <td>supine</td> <td>subtle</td> </tr> </table>	tractable	suppliant	transgression	bombastic	scruple	stigmatize	precipitate	supercilious	supine	subtle	<p>一般の読書で見いだされるおもしろい語の結びつきを集め、語源に基づいて、そのような叙述の特別な力を分析する</p>								
tractable	suppliant																			
transgression	bombastic																			
scruple	stigmatize																			
precipitate	supercilious																			
supine	subtle																			
<p>黒板に挙げられたような語に隠された民間に伝わる珍しい部分を見いだす（グループⅡ参照）</p>	<p>以下のような語(黒板上に示す)：</p> <p>グループⅡ</p> <table border="0"> <tr> <td>ordeal</td> </tr> <tr> <td>curfew</td> </tr> <tr> <td>chivalry</td> </tr> <tr> <td>sandwich</td> </tr> </table>	ordeal	curfew	chivalry	sandwich	<p>初期の英語の作家を読み、文学的な慣用句の力と味わいに気づく（例えば、<i>Beowulf</i> の慣用句の特質）<i>automobile, airplane, radio</i> の通常のスピーチからおもしろい語を聞き、慣用句的隠喩のような範囲の外にある流暢な使用に気づく</p>														
ordeal																				
curfew																				
chivalry																				
sandwich																				
<p>名前に含まれた想像的な示唆を見いだす（グループⅢ参照）</p>	<p>もともとの意味に因んでつけられた名前（黒板上に示す）：</p> <p>グループⅢ</p> <table border="0"> <tr> <td>Blanche</td> <td>means</td> <td>white</td> </tr> <tr> <td>David</td> <td>◇</td> <td>beloved</td> </tr> <tr> <td>Margaret</td> <td>◇</td> <td>peace</td> </tr> <tr> <td>Elizabeth</td> <td>◇</td> <td>oath of god</td> </tr> <tr> <td>Peter</td> <td>◇</td> <td>rock</td> </tr> <tr> <td>Mabel</td> <td>◇</td> <td>lovable</td> </tr> </table>	Blanche	means	white	David	◇	beloved	Margaret	◇	peace	Elizabeth	◇	oath of god	Peter	◇	rock	Mabel	◇	lovable	<p>アメリカの場所に適合した <i>Indian</i> の名前の生き生きとした歴史に着目する</p> <p>インディアンがそれらの名前をどのように受けとめていたかを説明する</p>
Blanche	means	white																		
David	◇	beloved																		
Margaret	◇	peace																		
Elizabeth	◇	oath of god																		
Peter	◇	rock																		
Mabel	◇	lovable																		
<p>偉大な出来事がいかに我々の言語に対して生き生きとした語をもたらすかを見いだす（グループⅣ参照）</p>	<p>以下のような語(黒板上に示す)：</p> <p>グループⅣ</p> <table border="0"> <tr> <td>barrage</td> </tr> <tr> <td>camouflage</td> </tr> <tr> <td>slacker</td> </tr> </table>	barrage	camouflage	slacker	<p>未来の回避に向けて陳腐な比較を挙げる：</p> <p>still as a mouse Blind as a bat</p>															
barrage																				
camouflage																				
slacker																				
<p>思考に生き生きとした力を与えるように、グループⅣにあるような語を想像的に使う</p>	<p>グループⅤ</p> <table border="0"> <tr> <td>goad</td> <td>crestfallen</td> </tr> </table>	goad	crestfallen	<p>語について話し合う本や論考の参考書目を作る</p> <p>Amy (in <i>Little Women</i>) Macawber (in <i>David Copperfield</i>) のような特徴について話し合う；自分に比して大げさすぎる語彙を使う Mrs. Malaprop</p>																
goad	crestfallen																			
<p>通常の語に含まれた慣用句的な比較を見いだす（グループⅤ参照）</p>	<table border="0"> <tr> <td>harrow</td> <td>sterling</td> </tr> <tr> <td>yoke</td> <td>geared</td> </tr> <tr> <td>decoy</td> <td>bait</td> </tr> </table>	harrow	sterling	yoke	geared	decoy	bait													
harrow	sterling																			
yoke	geared																			
decoy	bait																			
<p>語それ自体に新しい興味を探す 以下に関わる一般的な話し合い</p>																				

<p>新語を語彙に入れる方法 語彙に対する読むことの効果 見ただけで語を知る 大言壮語 (big words) のユーモア 新語を試みに使うことに対するおそれ</p>	<p>以下のような本： <i>Stories That Words Tell Us</i> by Elizabeth O'Neil <i>The Romance of Words</i> by Ernest Weekley <i>Words and Their Ways</i> by J. B. Greenough and G. L. Kittredge</p>	
<p>初期の英語の作品の "Playing the Sedulous Ape", そしてそれらの語彙の味わいを理解する</p>	<p><i>Beowulf, Canterbury Tales, Macbeth, Essay of Francis Bacon, Paradise Lost, Pepy's Diary, Sir Roger de Coverly, and, or, othes.</i> からの適切な節</p>	
<p>機械時代, 開拓時代, 牧歌時代, その他のイメージで豊かな作品を書く</p>		<p>以下のような語に関する詩のタイトルや作家を図書館で見つける: Anna Hempstead Branch による "Her Words" あるいは Gladys Cromwell (in <i>Anthology of magazine Verse, 1919</i>) そしてそれらを級友に読み聞かせる</p>
<p>適切な慣用語を用いて作品を書く (quaint, modernistic, literal, lofty, etc.)</p>		
<p>語について私的なエッセイを書く</p>		<p>語について詩を書く</p>

4. 経験主義国語教育の単元学習の特徴—生活経験に寄与する言語経験

経験主義国語教育における言語経験には二種がある。一つは、「生活経験に道具として機能する言語経験」であり、もう一つは、「生活経験の質を高め豊かにする文化的価値を有した言語文化財を取り扱う言語経験」である。本書の「ラベル貼り」や「インデックスを使って調べる」などは前者に相当し、「ラジオ放送を聴く」「創造的な表現をする」などは後者に相当する。前者の言語経験は生活上の必要に応じて生まれ、後者は学習者の興味関心に基づいて生まれる。

実は梅根が想定した経験単元における言語経験は、前者すなわち生活に道具として機能する場合の言語経験であった。しかし国語の単元学習はそれだけではない。本書では文化的価値を有した言語教材を取り扱う国語固有の単元も想定している。そこでの単元学習の特徴は、「創造的表現」を例にすれば、書いた作品を級友に読み聞かせたり、好きな作家の文体を真似たり、雨の音をオノマトペを用いて表現したりというように、言語経験が生活や学習者と結びついて行われる点である。したがって、本書のような単元は、一度で終わるものではなく、生活の中に言語経験の好機を見つけては適時行われる、継続性をもったものである。

上述のような単元の特徴上、評価の観点も継続的なものになる。つまり、「～ができたか」というような学習の成果を問うものではなく、「当番表で自分の名前を読むか」とか、「ラベルを見て正しい場所に物を置くか」とか、あるいは、「地理や歴史や理科の学習で新しい話題が取り上げられる時、なじみのない語や知らない語の意味を自ら調べようとするか」「資料を探す時、教師の助

けを必要とする子どもたちが減ってきているか」などのように、単元で学習した後の行動における向上の変容を継続的に観察していくための視点が示されている。すなわち、単元学習は学習後の生活経験に寄与するものとして行なわれるべきものなのである。この意味においても、単元学習は未来に開かれたものであるといえる。

梅根や増田は、コア・カリキュラムの立場から本書の受容すべきところとそうでないところとを区別し取舍選択するという態度をとった。しかし本書を貫いているのは、統合 (integration) の考え方ではなく、相関 (Correlation) である。教科を否定せず、国語は各教科を関連させるのに最も適した教科であるとしている。国語科で経験カリキュラムを考えるからこそ、他教科や他領域の生活の中に、前述した二種の言語経験の場を見いだすことができるのである。

注

- (1) 同カリキュラム委員会は1929年に組織され、国語の教師だけではなく、NEA 初め6つの研究団体が代表を送って協力した大がかりな研究であった。
- (2) 倉澤剛 (1985)『米国カリキュラム研究史』(本研究は昭和32年12月にまとめられた学位論文)。風間書房 pp. 514-517, 梅根悟 (1950)『単元』誠文堂新光社 pp. 41-43, 平井昌夫 (1950)『アメリカの国語教育』p. 220, 倉澤栄吉 (1949)「国語の単元計画」東京高等師範学校附属小学校内初等教育研究会編『教材研究』第42号, 『倉澤栄吉国語教育全集1』角川書店 p. 378, 増田三良 (1950)『国語カリキュラムの基本問題』誠文堂新光社 p. 8
- (3) 『国語カリキュラムの基本問題』は増田の代表的著作として国語年鑑に出されていた。しかし、事由は定かでないが、昭和42年以降年鑑からその名が抹消されている。
- (4) 本書における「単元」(Unit) は、「全体カリキュラムの組織上の機能的な部分」として定義されている。つまり、ストランドを構成する一々の単元は、全体カリキュラムに位置づくものとして構想されるものである。
- (5) コミュニケーション領域の単元例は示されていない。それは、以下のようなコミュニケーションに対する本書の基本的な考えによるものであろう。

言語の使用というものは常なるものであり、通常のコミュニケーションの重要な様相である。カリキュラム上、コミュニケーションを国語部の中に割り当てるのは便宜的なものにすぎない。……

コミュニケーションの技術は、実際のコミュニケーションや即座の論争から直接的に生じるものでないような価値の薄い単なる話すことや書くことの練習を通してではなく、実際の、通常のコミュニケーションの経験を通してのみ習得される。(本書, p. 133)
- (6) 初等段階の読むことの経験として、次の6つが挙げられている。(1)準備段階の経験 (2)入門期の経験:読むことを学ぶ (3)一般的な興味に応える読み (4)質問に答える読み (5)関連文献から情報を得る読み (6)指示に従う読み